

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成 ～「城南魂をもち、主体的に学ぶ人」を目指して～	①学習指導方法全般の改善 ②コミュニティスクールの活性化 ③教職員の資質・能力の向上(教育は人なり)

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学習指導方法全般の改善

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・生徒の基礎学力定着	・12月の県学習状況調査において、正答率50%以上、無回答ゼロの生徒を80%以上とする。 ・『学び合い』の考え方を軸とした授業を実践し、全員が課題を達成することを旨とする。学習集団としての高まりと、学力の向上を図る。	・生徒の実態分析をもとに校内研修会や教科部会を実施し、達成に向けて教職員の意識の共有化と実践を図る。 ・『学び合い』の考え方を軸とした授業を全教科で実践する。 ・学期間、学年間の結びつきをより強くするため、段階的に合同授業を取り入れる。	A	・12月の県学習状況調査において、1年生の正答率は61.4%、2年生の正答率は57.4%で、目標を達成することができた。また、全教科で無回答率は低い傾向にあり、1年国語以外は県平均を上回った。 ・『学び合い』やアクティブラーニングを中心とした授業スタイルに全教科で取り組むことができた。	・県学習状況調査では、記述式の問題に関する正答率が前年度より伸びている。学び合い活動の中で、表現力や論理的に説明する力が身に付いてきていると考えられるので、今後も継続していきたい。また、合同授業を積極的に取り入れ、学校全体としての学習集団の高まりを目指していきたい。
	○生徒指導の充実	・城南魂を身に付けた生徒の育成	・学校評価アンケートにおいて、「相手や場に応じた行動ができています」と回答する生徒の割合を87%以上とする。	・城南魂とは何かについて生徒・教職員に共通理解を図り、全教育活動を通して時宜を得た適切な全体指導や個別指導を行う。 ・問題対応だけでなく、開発的生徒指導の観点に立った指導を行う。	B	・生徒アンケートより、「相手や立場に応じた適切な行動をしている」という問いに対して、よく当てはまる、だいたい当てはまると回答した生徒が90%だった。しかし、あまり当てはまらないと回答した生徒が10%いるため、100%を達成させたい。	・事後的な生徒指導も必要だが、開発的生徒指導に更に努めていきたい。生徒会と協力し、沢山の生徒に出席を促し、生徒の努力を積極的に承認し、彼らの自信に繋げていく。 ・担任や教科担任だけでなく、全職員で生徒に関わっていく体制を継続させる。

②コミュニティスクールの活性化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒の育成	・道徳教育を推進することにより、学級、学年、学校という集団の高まりを目指す。 ・JRC活動やボランティア活動の活性化を図り、活動への参加生徒を増やす。 ・教職員の人権意識を高め、生徒が主体となった人権・同和教育を推進する。	・『学び合い』の考え方を軸とした授業実践や学校行事への取組により、相互理解を図る支援を行う。 ・生徒の成長の様子をアンケートやワークシート等により継続的に把握する。 ・募金活動やペットボトルキャップ収集などJRC活動を活性化し、ボランティア意識の高揚を図る。 ・人権集会や人権週間の取組などを通して、学校行事や学年活動において生徒が中心となって活動できるように支援を行う。	A	・『学び合い』の考え方を軸とした授業実践や学校行事への取組のための研究を進めていき、集団としての高まりを目指す。 ・『学校行事には積極的に参加している』と回答している生徒の割合が75%である。また、アンケートやワークシートからも、相互理解を図るよい機会となったことが伺えた。 ・ペットボトルキャップ収集が終了したが、JRC委員会を中心に、募金活動やボランティア活動の意義と活性化についての集いを開くことができた。 ・人権週間の取組で、JRC委員会を中心に、生徒が主体的に企画・運営する取組ができた。	・今後も、『学び合い』の考え方を軸とした授業実践や学校行事への取組のための研究を進めていき、集団としての高まりを目指す。 ・道徳の授業において、自己を見つめたり、他者理解を深める場を設定する。 ・JRC委員会の年間計画の中に、人権集会と人権週間の取組を位置づけ、生徒が主体的に取り組んでいく流れをつくる。
	○情報発信	・HPの更新など広報の充実	・学校行事や生徒の活動の様子、地域との連携の状況を積極的に情報発信し、学校に対する関心を高める。	・HPや学校・学年便り積極的に情報発信する。 ・公民館に学校便りを掲示してもらい、校区全体への情報発信を行う。 ・地域ボランティアに参加させ、生徒の活動の様子を見てもらう。	A	・学校だよりの発行頻度を増し、学校の情報や教育活動を保護者へ周知するとともに、社会的に関心が高い情報についてもできる限り掲載した。また、定期的なHPの更新、メール配信等細やかな対応ができた。	・生徒、保護者の関心が高い情報や学校生活の状況がより分かる情報を掲載した学校だよりを目指す。 ・公民館や公の施設に依頼して、城南中だよりの掲載を続けていき、これまで以上に校区への情報発信を図る。
学校運営	○開かれた学校づくり	・家庭や地域との連携、小中連携の取組の深まり	・学校に期待されている面をしっかりと踏まえ、地域に誇れる特色ある活動を展開する。 ・フリー参観デーやPTA総会、その他学校行事への保護者の参加率を60%以上にする。	・CS協議内容を十分に踏まえるとともに、小学校と学習・生活面の連携充実を図る。 ・学校行事の日程や内容を不断に見直し、保護者の「見てみたい」「参加したい」という意識の高揚につなげる。 ・地域の方と生徒がふれあう場の設定を工夫し、地域の声を生徒に聞かせる。	A	・城南豊夢学園運営協議会の「学力」と「まなざし」の高プロジェクトで推進した「ドリームスクール」や「出前あいさつ運動」等により小中交流は充実し、魅力をアピールすることができた。 ・学校行事等への保護者の来校者数は増加している。 ・まちづくり協議会等からボランティアの要請など直接生徒に話す機会を設けることができた。	・今後さらに小学生の保護者向けのアピール(各種行事への案内等を行う)を充実させ、城南中の魅力・イメージアップを図り、校区の中学校としての存在感を確立する。 ・学校行事等は土曜授業を活用して、保護者が参加しやすい日程設定を進めていく。 ・地域行事への参加を地域の方自ら生徒に話せる機会を増やしていく。

③教職員の資質・能力の向上(教育は人なり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ・職員の間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。	・各分掌の業務内容をより効果的に行えるよう、適正化の観点から見直す。 ・職員が勤務時間と仕事内容にゴールを定め、見直しを持って取り組めるよう意識化を図る。 ・職員間で業務の在り方、見直しについて話し合う機会を設ける。 ・職員の組織管理や時間管理、健康安全管理を始めたマネジメントを着実に実行する。	B	・各分掌の報告業務等が円滑に行えるよう、分掌ファイルが共有できる位置に設置した。また、各担当と業務の進捗状況を確認することで、確実に報告が行えるようになった。 ・業務の見直しについて協議する時間が設定できなかった。 ・職員に、業務に目標を持って取り組むよう促し、また、おおよその退勤時間を知らせることによって、職員の健康管理に努めた。	・年度内に職員へのアンケート等により、分掌業務の適正化についての意見を求め、次年度の業務内容の改善を図る。 ・職員間で業務のあり方、見直しについて協議する場と時間を設定する。 ・職員の健康管理に留意し、「佐賀市教職員健康相談」等の情報提供を積極的に進め、個別に声かけを行ったりする。
教育活動	●いじめ問題への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・未然防止のための居場所づくり、絆づくりを行い、いじめゼロを目指す。 ・いじめを見逃さない体制づくりを行い、組織的な対応をする。 ・保護者や関係機関との連携を密にする。	・情報をいち早くキャッチするために定期的な生活アンケートを実施する。 ・生徒指導体制を強化し、情報交換を定期的(週1)に行う。 ・SC等、専門性をもつ外部人材と連携を図り、早期対応に努める。	B	・「学校は、いじめや差別をなくすための人権教育に取り組んでいる」という質問に、保護者の90%が「よく当てはまる、だいたい当てはまる」と回答している。 ・「私は、いじめや差別をなくすようになっている」という質問に、生徒の89%が「よく当てはまる、だいたい当てはまる」と回答している。	・年3回の教育相談や生活アンケートを実施し、生徒理解に努めている。しかし、それを形骸化させず、生徒の変化や悩み事に早期に対応していく。 ・週1回生活指導部会を開き、生徒の情報交換を定期的につなげる。いじめは、どこでも、誰にでも起こるという緊張感をもって早期対応に努める。
	○不登校生徒への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・教育相談担当を中心とした組織的な教育相談体制を確立し、学校全体で欠席者の把握に努める。 ・不登校生徒の早期発見・早期対応に努め、学級復帰を目指す。 ・保護者と連絡を密にし、信頼関係を深める。	・情報交換を密に行い、組織的な支援を行う。 ・定期的な教育相談アンケートやQUAアンケート等を活用するとともに、ケース会議を実施して個別に支援を行う。 ・SCやSSW、サポート相談員等や関係機関、地域との連携を強める。 ・専門性をもつ外部人材を活用した職員研修を実施する。	B	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、サポート相談員、学習支援員の協力を得て、関係職員との情報交換を密に行うことができた。 ・年2回のQUAアンケートの実施と、夏休みの職員研修で教育センターから講師を招聘し理解と活用力を高めることができた。 ・上記2点の要因に加え、担任を中心に保護者との連絡を密にとることで、不登校生徒への早期対応を図ることができたり、教室への完全復帰につなげたりすることができた。	・今年度も不登校の生徒の数が、3年生は減少したが、1、2年生は増えたという現状があるため、来年度は今年度の方策に加え、早期発見・対応の前の未然防止に努めていきたい。 ・上記のために、教育センターのプロジェクト研究や、構造的グループエンカウンター等の実践例を参考に、道徳や学活の授業や学級・学年集団作りにおける、支持的風土づくりに力を入れていきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	・部活動の奨励と推進 ・基本的な生活・食習慣の定着 ・健康・体づくりに向けての意識化	・生徒が意欲的に取り組む部活動の促進と心身の健全な育成を目指す。 ・朝食摂取率を向上させる。 ・定期的な生徒や保護者へ「保健だより」を発行し、健康管理等について知らせる。 ・性に関する指導や防煙、薬物教育の充実を図る。	・部活動と学習の両立を図り、熱中症などの予防促進を行う。 ・朝食摂取の取組を実施する。 ・アンケート等を行い、生徒の実態に応じた活動にする。 ・性に関する指導については、発達段階に応じた指導を関係機関等と連携をとりながら実施する。また、保護者を対象とした講話も行う。	A	・練習計画を作成し、計画的に部活動休みの日を設定していきながら、部活動と学習の両立が図れた。 ・朝食摂取の取組を実施する。 ・熱中症などの予防対策に積極的に取り組むことができた。 ・1週間にわたり朝食の意識調査を実施し、食に関する意識づけが図れた。 ・性に関する教育に関しては、学年毎に講演等を取り入れ、発達段階を考慮して効果的に実施することができた。	・部活動に関する指針をもとに、学校としての部活動の在り方の新しい形に取り組む。 ・生活・食習慣の定着は特別活動の中で計画的に実施していく。 ・健康・体づくりについては、関係機関と連携して実施していく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度も、すべての項目において、「ほぼ達成できた」「概ね達成できた」と評価でき、全体として良好な教育活動が展開できたと考える。学習面においては、特に3年生の伸びが見られ、1・2年生もほぼすべての教科において県平均以上を達成している。生活面においても、3年生の落ち着いたことにより、より積極的に取り組む姿勢が他学年によい影響を及ぼした。職員一丸となつての取組に加え、コミュニティ・スクールとして、小中連携や地域連携に取り組んだことにより、より多くの人々が関わり、見守ってきたことが教育的効果をあげていると考えられる。

次年度に向けて、学力向上を目指し、引き続き『学び合い』の考えを取り入れた授業に全教科で取り組み、授業改善を推進する。また、『学び合い』の考えをもとに、すべての学校行事等において生徒のコミュニケーション能力の育成を図り、良好な人間関係を構築させることで、本校の大きな課題である不登校の減少につなげたい。